歌集一

散木奇歌集

散木奇歌集 十巻一冊源 俊頼家集

昭和五十三年十二月、飯島書店
にて

村井 順

散木奇歌集 上一

春部 正月

堀川院御時百首歌めしによりて元日歌をつかまつる

春の雨のひきつるまゝに花人のたちわかるゝやゆめぬきの月哉

立春日よめる

いつしかと今ぞ氷もとけそめて春ゆかしきは

羽衣霞をとまれる

ちはやぶるあしたの原をとゝ日とてもとけぬ氷ぞ春はしめける

一日はのあしたの後に人々とけ侍る

身につもるとしつもるさとの年なれば光の陰ぞ先らよりなる

張仲の夫は八隅の家よりて集りて十首歌侍

内閣文庫
内閣文庫
内閣文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢より給る松もつきの四日の夜ともよる白髮
ワるとなくなくとそよる
松くしてしらるる春ワるとて成うる髮をとゆるす春
田上なる所より給る松をこの方よりて何事のいとと
髮ワるとて人わすれあまたあるなりもあるとも
人のトたるとなるかつるまとしいひつゝ久ほ
花さかるねんくまとさうすめもあるなる所より春かとそる
伊勢の國より給る松もつきのちゝ月の日ねいと
ひて家とゝ世よいとて ひねもすわすし
てくやを加るとて さらひするとうえひとうる
物をすする松をつゝそるとめもるあて松をるか
さるまひとそうるくよる

春をまて給ふ松いとる旅あるして神のより給る山松をとり
別當実行の六条殿家をとて歌合をとゝまる久ると子
日ある成よる
かすゝしみるもの山松をとる子日してかとる成神をあをてとる
もつとこのちゝ月毎の日所ある中をとおもひつる
てくらる
何事を待ゆとて ちをあるとる初めをくまて月人をわし
百首歌の中をとる子日のんを使る
いとひつくるとも松成門まてはつる所春のはるる
雪中子日しるんをとる
子日してよるひ成のつる雪をまて二条の松と花をとる
百首の歌のろる若菜成よる

吉日野の雪とはうばらつゝ[illegible]
むつきの七日中宮亮仲實うち〳〵あそくさあるを
つゆはらい波とゝ
とうゝ川むつきゝゝ[illegible]
うゝ

仲實朝臣

ふきゝふきゝ[illegible]
屏風の絵つゝ[illegible]
うゝる不[illegible]
かすゝ雪ゝ雪ゝ村ゝ[illegible]
人の許ゝ若菜をおくるとて[illegible]
ゝゝ
たゝひる年ん[illegible]

七日卯杖ゝ

はつるゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
ゝゝ

地のゝゝ[illegible]
人の許ゝ若菜[illegible]
ゝゝ為[illegible]
人のゝゝ[illegible]
いゝ[illegible]
伊勢ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとしく思ふ人の鶯にもあらぬや梅の香をうとむ

山家鶯

鶯のさへずりさそふ山里は誰と春をば分て成らまし

百首歌中に鶯

かすみこめる野辺の鶯

山家鶯

言さえぬ谷の鶯なれなれて春の何をしるべ春知らむ

おなじ心を

山里につまとしたふ鳴鶯の声ぞ聞なれぬる

皇后宮の人々と歌つかうまつりける頃

中鶯

ふる年とよめる

春の日はつれなきものと思ひしに鶯のなく八重の物思ひ

東北院の花さかりなる也と聞て人々あまたあつまりて

ながめたりける梅花とさかりなるをおりて

うたよみける鶯のおりまさりてなかりけるまこそうち

とけたりけれ

かくいづくすみなき梅を鶯のいとふてさかるあるらむ

梅花夜薫

梅の香をおりの垣根をおくるまでやはあらぬ陰かは

梅花遠薫

ひさかたの月の桂の梅花誰里にかは白ひさらんん

大殿の歌合の歌

ひとしく奉まて作をまて屏のつきに女をとこ

ふ遠てる梅花風うしろひて男おふ花

[illegible]

梅の花ちる本ゝ[illegible]風ふけはかさねぬさ[illegible]神[illegible]

百首歌中に梅花のこゝろ[illegible]

[illegible]

皇后宮亀殿國朝臣家に梅花落水といへる

歌[illegible]

[illegible]つる花[illegible]香川[illegible]瀬[illegible]

二条師俊卿のもとにて雪[illegible]

[illegible]

[illegible]る梅の立枝に降雪のこゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅梅をよめる[illegible]

くもりなの梅[illegible]鳴鶯[illegible]

梅花風[illegible]

かさ[illegible]

月照梅花

[illegible]梅乃花香をさ[illegible]月[illegible]

柳陰風

いつ[illegible]風の[illegible]

法成寺[illegible]

[illegible]柳の木の[illegible]

花の[illegible]

青柳のいとゝも枝になびくなる春の風にぞ乱れ初めける

百首歌中に柳戯れあり

ものゝ舟ゆくかとみるはんさゝ川柳にゝ隠れ見ゆ

二月

いとゝさかりなる花にいとる春を送る

めくむとやなくさきそめる花なれど春のなごりまれ

賀陽院殿の宴会に桜をよめる

ふさかりに咲初しより久方の雲井よりこそ春の来ぬらん

修理大夫顕季卿六条の家にて桜の歌十首人々

こゝろせりるまゝに

高砂の山桜ばかりて尋ぬ六花にて春ぞ来ぬるしるべ

あしやの裏にて花を見る

さかりなる花ぞ春ぞ来ぬる風にぞ氷の解ぬる

ちるこゝろ風にさそはれる花のちるかなるべき物を

風吹てさそはれる散花や雪にまがふ袖の色哉

白雲の峰にたなびく桜花さかりにたゝぬ春ぞ来ぬる

せきつゝ来ぬるこゝろ花の名にこそ

とゝ吹ぬきはさそはれる風のこゝろ

さそはれぬ春ぞ来ぬる

遠見桜花

神ゝ山のゆのぬきゝ花ひさかたの雲の袖

中宮の内の堂の八重桜花を修理大夫顕季卿

[illegible]八重の[illegible]花[illegible]春と梅[illegible]咲[illegible]

[illegible]

隆理大夫

[illegible]八重やはさるる梅花[illegible]おもひ[illegible]れ

[illegible]下[illegible]面中梅と[illegible]人[illegible]ある

面[illegible]枝[illegible]花[illegible]ある[illegible]

中[illegible]亀仲實[illegible]花[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]さ[illegible]春[illegible]

齋院[illegible]花[illegible]忘帰と[illegible]

[illegible]

陽山の梅と[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠山梅と[illegible]

[illegible]

尋花日暮

[illegible]

小山の[illegible]梅誰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堀川院市時島明教の花[illegible]八幸[illegible]池上花と

[illegible]

中[illegible]の心堂の八重梅[illegible]亮仲実

なほ〳〵てよあるとて　ゑんまこ八ゝこゝたんてゝ　ゑゝて
ゆくたさる　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ

又人々よりうけたまはり山さくらをそこなはるる人しなるべしハ
桜をは名殺も所ゝ山さくらをそこなはるる事をとゝめる
同定家しゆるる事をよめる
いとせ山をふかくこゝろおひたちて本こゝろにも花をこそわ
二条帥後忠のうゝ山里ゝゝ桜柳文校
とゝめる事をとゝめる
あすよりさんをうゝ桜の枝をゝゝ柳のいとゝもすゝりまをう
除山桜とゝふ事をよめる
風をうるもかはさうゝる山をこは前ゝゝや花の春ゝゝ
花色留人
人ハさそいとゝゝもゝ桜花をゝ山桜にゝゝあるせゝ
嵯川院の御門附陽院殿了ゝゝゝゝ

こゝ中こゝ所ゝ百ゝ所ゝ所ゝ花ゝしてかゝ
ゝゝ毎ゝ家ゝゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ池のゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

誰か又あらしをいとはしさくらの山のうすくれなゐの花

曉尋花

[illegible]

見山花

[illegible]

大蔵長實卿の白河の宿所にて花を旅宿と云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

越山花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堀河院の御時[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

落花風

[illegible]

春の来りし[illegible]風の吹さそふ[illegible]花ちるさまやハ

[illegible]

青柳乃いとゆひよりて風とゆひとゞめしかふ

池上落花

柳[illegible]風[illegible]なびかせハ散ても池のなかに[illegible]

土御門内府歌院[illegible]水上落花[illegible]

風吹て散る花も水の面にうつもれ[illegible]

尋山花

[illegible]のとゝ[illegible]乃さ[illegible]来てこゝにハ時しも風のまてこゝかれ

かゝる堂の橋さかりにてこゝにてこゝ人くあるさま

て惜落花とよめる[illegible]を詠る

[illegible]

雲居[illegible]

[illegible]

花下日暮

さかり[illegible]花散[illegible]

落花留客

[illegible]

[illegible]河の花[illegible]

[illegible]

[illegible]

花間井

[illegible]

花下述懷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月

三月[illegible]人の[illegible]

[illegible]

三月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同百首中に春駒

春駒とよめる

春駒のあそぶかたをみるにつけてもいとどあまたの駒ぞ思ひやられける

拾遺愚草十首歌よませられける中に駒を

春の野にさそはれぬるはいきたつるこまにぞまさりける

百首歌中に

ひさしきまの恋のたのしさをかぞへそめてはいくかなるらん

歌一首

たまくしげ二重の内のひとつにぞ思ひつきぬる恋のはじめは

百首の中に

鳴くなくもかさなりてこそ恋しけれ

前代

あかつきのしらぬそらねをとひてこそ春て船のよさねをしれ

たかくこそ山里ちかく住なれぬ雲のかよひぢ人のとはぬに

ゆきとのみ雪のふるにはあらねども花のかをりぞ春の山里

屏風の絵に春山里をかくとてかきつけ侍りける

たかくすむ雲のかよひぢ人とはぬ春の山里

さし出て鶴すむ雲のかよひぢ人とはぬ春の山里

百首の中に歌めされける

関路をかすみとともにかへりなば山の外の春をしるらん

家経のもとにまかりてはべりける

山路にはいかなる人のとはぬらん春のかをりの物うらん

[illegible]

水道の山門成

[illegible]

伏見の山里におるしんぜあり

[illegible]

[illegible]李の六条坊門にて歌仙

いつらしあるあり

山門にてやん人の名ふんにたるとてわらはせ

[illegible]肥後のもとにて山門にて

やしてくにたまたまあるにて

むすひつくあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]院の時の[illegible]
[illegible]

[illegible]
二条院の[illegible]
[illegible]の花[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

三月晦日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

立春 春ゆふ [illegible]

[illegible]

うつし

[illegible]

おくれ [illegible]

栖霞寺 [illegible] 雁渓 [illegible] 藤中

春春 [illegible] 我 [illegible]

[illegible] 三月の晦日 [illegible] 欲 [illegible]

[illegible] 春の [illegible]

人の [illegible] 三月晦りの [illegible]

春 [illegible]

百首歌中 三月の晦日 [illegible] 侍り

[illegible]

[illegible] 三月晦りの [illegible]

かつる春 [illegible] 三月 [illegible]

[illegible]

新本音歌集第二

夏部　四月

石清水神社にて人々とともに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠見卯花

[illegible]

卯花留客

卯の花のさかりは[illegible]山里の人[illegible]

[illegible]

卯花雑家

何[illegible]

百首歌中より橋

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

初聞郭公

時鳥[illegible]

[illegible]

[illegible]

うすもの秋ましる時鳥左衛門督の物ねたる時
郭公とちる
ゝそはつゝらに杜鵑
郭公未過
ほゝゝ沢つゝき四月ゝ
五月
夜聞郭公
明ぬるゝそゝむかゝ沢郭公昔の枝ゝ鳴也
伊勢ゝ物ゝるゝ五月一日ほゝゝ半沢のゝて
ち来ゝゝ山ひ乃ゝ山ゝ
ゝ今ゝ
郭公ゝゝゝゝゝゝ沢郭公ゝ昔の枝ゝ鳴也

おゝゝ沢杜乃ゝ月ゝ空ゝ八五ゝ四ゝ月ゝ郭公
今ゝ郭公の歌人ゝ
けゝのゝ山ゝ時鳥ゝ
ゝ月ゝ沢人ゝ空ゝ時鳥
郭公ゝ沢ゝ人ゝ音聞のゝ
ゝ月ゝ物ゝ
時鳥待ゝ
ゝ月ゝ杜の
蜀魂ゝ杜ゝ
ゝ杜ゝ
おゝ沢の歌ゝ

[illegible]

夜深し　郭公

[illegible]

郭公　面影

[illegible]

時鳥　又　[illegible]

閑居　郭公

[illegible]

山家にて　郭公

[illegible]

暁　郭公

[illegible]

百首歌中に　郭公

[illegible]

[illegible]

侍　郭公

時鳥　[illegible]

毎夜侍　郭公

[illegible]

当陽院殿の歌合　時鳥

[illegible]

大貳長實卿乃家歌合　郭公

[illegible]　　赤遠

時鳥　[illegible]

山中　郭公

[illegible]

郭公驚眠

[illegible] 時鳥呼[illegible]つゝ人[illegible]

郭公[illegible]

[illegible]の雲[illegible]行の[illegible]

雨中郭公

[illegible]山の[illegible]

島の[illegible]

[illegible]の滝[illegible]郭公[illegible]

侍郭公

[illegible]山の時鳥[illegible]

[illegible]院乃[illegible]

[illegible]

時[illegible]郭公[illegible]

郭公

[illegible]

[illegible]寺[illegible]

[illegible]大[illegible]

[illegible]寺[illegible]

[illegible]文[illegible]時の[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲居寺[illegible]郭公[illegible]

[illegible]

[illegible]

八条入道の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大貳長實卿の家にて郭公聞はべる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍郭公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

暮山郭公

[illegible]

同中郭公

[illegible]

晩聞時鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毎夜侍郭公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやの神天らたのわねるこねとさとうまもあ人うるる

この一一

うまてさられねさえりさてかるれちるあやめもちるねる後さ

五月五日のあやめ

あやのひくさうぬうまいまいかるこ國さくあや後のうれを塔むし

あやめいとひのひ乃心ゆるてて

こうさるる陽される五月ひるあやめれねしまるし

百そ歌中さ菖蒲をあり

けの家し新乃こうめ三うるあやのしこえぬうで

あさうれのうるあやめしうる事をとある

菖蒲うあさうれぬうる風ゆをうれ旅人神のそうるる

あやめ草この乃新うるて陽者れのるる陽さうるる

五月五日のをとこ女のうるなうる新ねこせたう

りまるを事このりるをてよある

たりるるかるるし乃うる人にうるるひりるあやめをうて

望后こる權大実師四八条の家うて歌ゆ乃

る五月雨のうるる氏あり

さうるるまるいうるるる立水をひさすめ乃うえをうる

五月雨乃りんをとある

五月雨るるるるて出と定織く産に限る廣を也竟

百そ歌中さ五月雨

乃乃新ゆうるる人の乃ふりるさうれのるる

五月雨るるるりるる水のるれひるるくる成陽るれ

別當實房郎家合こ五月雨りんる成ある

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月

宝治官位大夫師時の八条乃家に水風吹
涼しいる事なり

風ふきて涼乃うきに成ぬ

夏日雑興

夏金を沢りふ人成達坂の関を過ぬ

月前遠恋

夏月山ゑ出ぬ月の前に見る事なり

月前月秋恋

夏の夜月出ぬ

夏月秋

夏の夜月出ぬ

夏月秋

夏の夜月出ぬ

夏月

[illegible]

堀川院の時二間[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪降寺は聖人のたてられ[illegible]

[illegible]

胡麻のあるあるあるあるとあるあるあるある

世の中はあるかなきかなる水の泡のごとしとぞ
水辺納涼
せくるまゝ流れ来たる山とのもゝひろれる
泉殿
いつかつ落ちる水にたりまて住てもあるかなかるれ
百人一首
さゝなみの志賀の都はあれにしを昔ながらの山桜かな
氷室
すゝしさをかたらふ人もひとしらぬ
氷室の山
さえかゝる末はひとつに結ぶ
氷室
皇后宮権大夫師時の八条の家の歌合
野風
ちかのこゝろは野の露のさゝ分るまてはあれぬるかな
樹陰風来
はるかなるこゝろをひてゆかしき秋をしる風を尾
蟬
ふるさとの夕のこゝろ
さゝなみの坂をしるかな
月
月さえわたるすゝしさは山をこえしの
人々とまりてさゝなみの坂をこえてあるこゝろをよめる
如意寺
如意寺のまつのこゝろ
二条関白殿にて
西院野草

[illegible]

右京亮伊通卿家ハ雲陽遠望といふ所にて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おのつからさき出花咲て秋の花さかるこゝ
文仲 成まゝ
日さかるこゝかきねのくま〳〵うゑて誰成出仲し え言るこゝ
鶴川成ちゝ
かるゝ夫れ行の井さゝ〳〵八月すゝ出たるし いと形くあゆゝ色もし
ものかゝゝ八月ゝ行ゝ船のゝうまさをゝて ゝゝ早さるるこゝ
ゝすゝくゝ鶴ゝ乃せるゝ あるゝ引ゝ志ゝるゝ秋ゝ佐ゝ成ゝ
別當実仲の歌合ゝ成ゝ
ゝ秋せるゝくゝ成鶴船乃ゝ成ゝ成ゝくゝ成ゝ
水鳥船秋
さゝくゝるゝ音ゝ成ゝ成ゝ成

[illegible]

百首歌中より秋を撰出して世にあまねく流布する

[illegible]

[illegible]

新木斎秋集巻之

秋部　七月

百首歌井に題詠三日成る

[illegible]

夕風

[illegible]

[illegible]

晩風送秋

[illegible]

[illegible]

乃こゑ[illegible]

秋来ぬと風ひやうれるこゑあり　星さしあがり

燒こゑ　いくらも　あるぬる風ひやるもあるこゑ

[illegible]

秋風や　風もまれにつるむ　神のかたこゑ

百首歌中に萩題よる

萩のこゑ　牡乃　秋こゑ　[illegible]

風屋萩聲と　[illegible]

[illegible]

逐夜風原

[illegible]

人の伴ふて七月　[illegible]

ひこ星のこゝろ
修理大夫 藤原季乃 六条の家にて 七夕を
たなばたのこゝろをよめる
こゝろ
七夕
七夕乃天の川の
七月七日 春陽
堀をほりてこゝろをよめる
一夜さへ
おなじ
鳥
おいぬまで

七夕の天の川
ひこ星
織女 恨暁
七夕
百首歌中に 七夕
七夕の後の
織女朋
きれて
八月
百首歌中に
こゝろ

晩見野花

くまのゝ花のあるを家にて林の中に分て人々とまとん

野花留客

林くまゝに家ゝゝの故藤花を見つゝ客のすゝめ色々

百々歌中に

ひるや成ける

あさ夕をかすみ、ゝ林に日ゝやとゝめて君をみるくさ哉ん

大友歌の中に

物の中に

をとゝ年成家に

おさへしるべやなりうる家ゝこゝふ物成こゝあさ

たる家とある

ゝゝまゝこゝゝゝこの日ゝやゝ物おもふ人をみる也

百々歌中に

家とある

ゝゝ林ゝゝあきはゝ家とおひうてもしまふ徒やゝ家にて

野花絶風

かゝいつるゝゝゝゝゝゝ林ゝゝゝゝゝゝゝ女郎花歌

ゝゝゝゝゝゝゝ

丹波前司季房の家にて人々秋の花題にて
し　如月花にてよる
さきそめし萩にうつる世の花にて物すきめもそこ
草花隠水
秋ふかみをとこ水上にこそ花題の
中納言俊忠の詠よく草花重と
焼萩に歳のくれにかなしく屋とにのう
ぬ条家乃屏風人々のうて
つゆ代なりしたる萩にて代さしのうりあの雑
秋情寄萩
あき萩とんなるにて代きれたるあり代月にて
百そ歌中に萩とよる

百そ歌中に萩とよる
秋ふきぬ未乃家乃屏ちかくあるもの
墓俊の秋の場所乃家にて人々秋のうり
草花寄隠にいる事代よる
あるしめ萩の末にて焼風にうる家や西門乃水
あるにて萩とよる
久しわと萩をかけて中秋月明の夜のうまも
月夜にて水通萩とよる
この世ものと萩のもいえるに代こそ
森花靡風
おく家にうるもうるあり
附関法師の大原の房に侍りて萩無題

[illegible]

山里もまちうたりけるきさらぎやよひ桜咲ほこりて

協河院乃ゆ付殿上乃人々桜をさしてよ

せられけるに殿つかまつる

うゝ鳴ゆれ入江の氷風をうらなる海の水ふる

田上の殿女房ゆ桜一枝

たてまつりけまして たちまちをれて たる

さしこえて殿とおのゝ桜とうらなる

少将まて殿くゝ神ゆ

かきつけてまねく神ゆ

石ゆ家中ゆ殿

花すゝき田ゆ乃ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろ〳〵に我もあるべきやうにたゝせやあるべきまゝに成ぬらむ

百首歌中に山を

この十ばかりなる年をもて世に呼ばれてあり経る秋

杉山に

夕さまに八重にすゆや物とゝろぶん杉むらまでに霧ゆりゆり

出為庭友

杉の根と淀にすゆやあるべきぬ人とゝろぶや

百首歌中に世をこゝろ

ゝろ世に世をこゝろ

田上にて長月のつごもりに世はなれくまゝ

こゝろ〳〵に秋ゆくゝ鳴よわるゝ

世をこゝろ

初雁を雲井はるかにきゝて

百首歌中に鴈を

かりがねもなるゝ志賀さゝ田にあつませ

旅鴈鳴雲

ゝろあるゝ雲にゝ秋ゆくゝ鳴よわるゝ

屏風に旅鴈といふ事をよめる

限なくいとゝ立ぬる庵のうちに誰となのめをらむ

田上にて

杉の田乃ゝ行くゝ鴈の鳴たゝ雲にゝ

家草のさきに風の吹ゝ

いつはりなる世に秋風の吹ゝ

[illegible]

石竹欲中ゝ あさうゝとある

朝顔の花のすゝこゝろうゝ 蓋を行ゐまん思ふ[illegible]

露草 葉深し 山里と

田上の山里ゝ[illegible]

つゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉の蔭ゝ[illegible]

風のゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

田上ゝ山田[illegible]

[illegible]

[illegible]

田よりてとゝのをるゝ
つるこゑの鹿乃遠声
夜深ぬ鹿
本乃もとの峯はゝしくこゑ
旅宿鹿
世はこのもかゝしくねをなくこゑ
鹿ゝてゝ
野亭聞鹿
さをしかの鳴ゝ野ゝ
鹿鳴
こゑ〳〵や

四月十六日の夕べ、山えのあなたにあたって鹿の鳴くを聞く

河内国と信濃国かの境なる御坂峠にて

師匠を慕ひ奉りて

在中将の古歌つたへ聞くにそなほ面影の立ちまさる

川乃なりてあるかの如くに

千鳥なくあなる川音はそこにあるか秋の夕暮

音はかすかにあるにあらずして

ちかひさへ絶えたるものゝ世とは

右は信濃伊那通のもの

本にとよめる

春の川さゝやかなれども流るゝ事の数ならぬ

田にとりて音はかすかに聞こえつゝ

ゆくへしらずなるかな

旅人と音とわかつやかりがねの

日暮れてふかき人にあらぬ

つゝそふかさゝ分くる人にあるこゝろ

とかしかの音にかなしのこゝろはいかにまと

思ふの家の扇食べ音はなし

春日野と立川郷音し志ら松のちとせとこしらせ

駒下りて田家音とゝる米とよめる

山里も時なきなれば小田の稲刈るこゝろ也

傳子の作と駒迎しうるわと

[illegible]

石首の中を船迎しける所を

けをあれはてしひのきの八橋のとなりなる年月のこと

もりつきのこゑ紙よりあり

[illegible]

甲斐なる船人けつさはりあるさはりのなりけるとなりて

[illegible]

[illegible]

阿波の嶋とうたへる所なるもしろき八湯に

石首の沢中を搗衣とあり

松風のおもかげ秋のさびしさ衣うちもとめ方川乃さと

搗衣のさとうち紙

あきをもとめまつ[illegible]

搗衣鶏眠

[illegible]

田家妹無

山田のもとにあれはてゝ駒をあそばせてひとりなる

八月ばかりの夕月の[illegible]

松をもあつまりてあつまりてあるなり

竹の葉に風のあたりて

田上にて田かりの秋こゝろ

[illegible]

秋の田[illegible]

山里をそゝとこのつるたもとにうたて神をなぐさ

いねのたもとにまつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水上月

たかくまこく侍のおとしく簾門のうれしりもなき月の影

就明月と題する歌

あるあり川岸これ侍やあるふもし侍くさある月の影れ

高陽院の歌合に月樹

山のもと雲の衣をぬきかけひろし月れさしわたれ

月のあるとなる秋肥後丞もとあり

あくるとしらぬ秋空に月かすみ誰る月れ入つるもし

前参議家隆卿の歌

月れやるとておりしらくこえ名きこも

林つきれもとこそ月のとすれ明てや秋の物ハ物ハ

あるとて月秋文こいる事れ

なひくあれ秋ても年れ一ぬるれ物ひのうせ秋の契月

侍の國こそ月のあくる侍るとて月れ入

なるれこそ

あしの葉乃あまし月れ侍るとて月れ侍の葉乃

下葉さしそくまて乃名れ月のあ

るとなる秋月防関のりうあるて物こそ

こそこの坂のあるとなる秋こそ月れ

いとくくしくて乃秋ハ世れ侍て月をなる

あるき月れ入て侍

ひのなのしれ物の月れ入て侍

就明月

月れ入てあしの葉

次風あるうの夜ひろもあり中の秋の月が
別當実明の浜まで月和思遠と云るす城
こしやゆ一枝さるを浦りしらはをよ八月十五夜
月のあきしるを家をてらし
ねやのうへのひとはしらてもる月をうらくるもあるれ
重陽を伝るとしの妹月のねうくるとうるる
もう来あ一くるをそうある
月影を物なるの中のあるを方るてを物ひるもるうるる
人の歌合せんとそこひりわも
この國のうきを上の浦をる月をうくるきこの物ふるよや
閏九月あるうるるこの八月十五夜春宮大夫公
實のもうくるまて伝るる

九月

九月十三夜於宗武衛亭詠閑見月副陽一夜
恋和歌并小序

もれる月ぬうち月はうくるひんーいくるもさ
さう海を内をあさうあるもうさうる泉の中もうく
たてうるうるもかあるる海さうゆ相もるひ中を州もう
もうーいうてあるうくーうをうくーうさるもあるうるる人
のんくくもうるる海をうるるもたるるるあるるものはるるるる
もるひさるもうけ月をる物ハいさるふるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くもぬひしう面のしらたまかしらはうこはうろひ
いさもんはうはうさうろうはうはうは

[illegible]

月前懐往事

[illegible]

石前寄仲[illegible]

[illegible]

[illegible]仲の公の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢霽　明月

[illegible]

神祇伯[illegible]仲のもとにて九月十三夜人々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月前[illegible]

[illegible]

別當実行の家の歌合に月詠

雲居寺にて月を述懐と云事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月前落葉

月前の落葉とは、月の光に紅葉の散るを、いとゞ美しきものとしたるなり。

四十五 紅葉の色、九月十三夜つゆの身にしもいとゞ深くなりぬれば、

空さへ冴えて、月の光、いとゞ清くなりぬれば、

きぬぎぬ

いとゞせんこよひの月を、つゆ庵のもとにてうつくしれ

朝ぼらけ、深山月、入る方ばかりぞ、

こよひは、おなじ月とは、いかでかうつらんとて、

四十六 月はいとゞ明かうなりぬれば、師殿の

おのづから、碧天の中にぞ、

いとゞ、月は面影、さえ、光ひとしきる月の

月の前の

くまなき月の、こゝろ、

水面に、月はやどれど、いとゞ、

月は、いとゞ、澄まさるべきにあらずとぞ、

月は、秋、いとゞ、山に、つゝ、

月は、ありとも、雲、たゞ、雲、

九月十三夜

月は、雲、雲、雲、

月は、いとゞ、人の、

秋の山の月、こゝろ、

月の、こゝろ、

四上て　ほのかなる　ゆふ　ゆふ　柳の本に
うるはしき　ものとも　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ
ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

八重おろす雪の下紅葉の重ねさへ花とぞひろひ分るる枝

九京大夫伝光朝臣

うつろへる色を惜しむ雪の重なるとてもあはれ

殘菊常綱

月雪の枝交枝しうゑおきし菊とぞやぬすびくらんつまん

ゆくすゑつ移ろふ物ゆゑ物ゆゑ

なほ色深く物ゆゑ物ゆゑ

枝の葉の

枝の葉乃島の山の

枝の葉の

枝の本枝のうちもとたりるる風ぬ

たゝ吹くうゑぬるうゑ

ふゝ

十首歌中

雪

雪の陸乃枝くまに白雲

田上

置霜や

原中

田上乃

田上

雪の陸乃枝くまに白雲

田上

置霜や

原中

田上乃

[illegible]

石育狩中と四家とある

秋の田のもちの穂々の山里とても打ちなびくるの秋

陸奥の信夫あまてる山里に紅葉ひろ[illegible]

[illegible]

石郷とちるもみぢの錦[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲居寺にて　初紅葉

ありあけの月　杉林風　[illegible]

散木奇歌集第四

久し部　十月

石清水中宮　初めてまうでしに

いにしへ　杉の名殘　[illegible]　木の葉　世の榮

世の榮

本宮　[illegible]

田上　世の榮　[illegible]　物　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の榮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水上 [illegible]

[illegible]

山家 [illegible]

山里も業はかひのひとなれあるこそあらめ也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

深山 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

少庵逆帳

次ぎに[illegible]の[illegible]

ひつち田城よりの

[illegible]八月ひつちかりつゝ物をつゝみて箱をぬや

田上にて[illegible]重のくるゝ心をとゞめ

[illegible]

たまゝ文おのひとゝせむ[illegible]たまむ[illegible]の[illegible]

いたゝくわせる

[illegible]

[illegible]

石清水中くちかせる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里すみさびしくてとまる人もなくさつきてもなのくるしつきまつ

野鳥雀

人々十首歌

又人々

左京大夫信忠の家にて鷹狩とよめる

日とるつかるとてしもゆるされたる人もあるまた

異国の鷹の図

多まくまこねつまてつまて乃川島と草ろ寄くさりせてそこは

ある〜しんぜんとある

夕月雲ふきつくして立島のゆるぎ〜寄とあそせつるる

百首歌中より寄鷹

日つるこんとよめあるのうるはかれ山ふしかしん

里径寒蛩

こうちあ〜根野さたるかるかるかて雙し霜をたくう

うけあのうこ〜れ千鳥とよめる

仲秋風かるるの海乃ふかるるこ〜まよ千鳥こうろ

ひこそ儀こんはよあ〜まて世井れ海とるるるれあ

千鳥せよ

雅隆こ〜ひのよ〜ひるこ川千鳥ソ〜交孤とひろこんたん

[illegible]

百姓歌中に千島と

[illegible]

百姓歌中に [illegible]

雑説に [illegible]

田上に [illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓歌中に世界地あるがごとく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新院の御所時の系図陰後[illegible]

[illegible]地下の人と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

百姓歌中に大風流

[illegible]

山家風とある

[illegible]

[illegible]

いるくくしあるを聞きて作りたるこの人の祖の[illegible]

みれども所もあるこゝろもしられぬ後かゝるこそ[illegible]

大殿[illegible]女のわすれとりてかゝる水鳥

のようあるこゝろと

物とつのもとにたゝこの水鳥のうんれとわすれとそやま

月光映水

池水にかゝりて影のすゝめこゝに水と月とあるこゝろを

殿下[illegible]夜月と

雲の上にえさしたる月をと[illegible]なるこゝろをつゝる

依月不忘秋

秋

[illegible]月をかゝりて秋のかゝるこゝろ

月はあるこゝろをあらはしてよをさしの月も

いとゝ人のたゝねうゝまを

よをさしてあるこゝろ

食[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家冬用

海くれんとくこゑしまやはるかぜ吹ハ氷ハ風こゑ[illegible]

石そ須中しまの氷島哉

[illegible]

おなしくもとよあるる

[illegible]

氷用 氷島

[illegible]

氷用 [illegible]

[illegible]

真野池氷と[illegible]

[illegible]

氷用 河氷と[illegible]

[illegible]

池氷といふ[illegible]

[illegible]

氷はなる

[illegible]

氷満池上といふこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌中より雪成る

しらゆきのふるのやまとは雪ゆゑに物ともなるか

山雪成る

年ごとに月のみねとはなれぬ人や雪成る物と見るらん

三陽院殿の歌合に雪をよめる

雪ごとに花ぞ咲かしうつもれて梢ぞ白き世にはなりける

かぐや姫の歌

ゆきはとしとしに人はこのもとに春のなごりをいかにとぞ思ふ

ひつるの一ふし

春ごとに花のたよりにとはばこそ春の名残を来てもとはなん

家道朝臣

春ごとに物思ふ人のなげきをば知らぬ顔にてこのもとに来る

大貳長實卿の家にて歌合せしとき

雪の未遂

雪ふるたびねもさめてふるまでは春をまちえぬ心地せらる

都にて雪中遠情といへる事をつかまつる

すたまるのやどやなにはのあしのねにあはれをかけんあまのつれなき

頼仲の長岡の家にて友仲殿あり合はせて

一夜とてせばくせばくて山家を数とへる事をよめる

せばくるるよもあり

ひろくぬる家をかりそめ堀まで岩ほの中にこもるなりけり

田上の山里にて

田上の山里にこもりしるべこそ雪ふる事をつもり来るらん

紫の庵の雪やはなにはるるとあるかりにきせりける

山吉とよめる

冬こかれもあさねの峯に吉つて花はさしつかそうつぶん

冬枝の月後まる

うさ山橋まる吉成加茂にて出る月は光風とうふ

吉はあしさ如何るとつかつる

いつてもとれりふなをつ吉成の成と人をすきあん

十首歌年とうとまとめる

吉房ぬのうねの物とまよ立つかつもまさ久

又人よかりて

夜のあさ人よかつる神面ひろ山ろ物よ吉りつて

雪与藏除

山里ハ橋まる吉はあさ人やかれとをまる

丹波前司吉房家にて雪中侍友と山ば

半歌ある

さねさらしいさ山ばたの山里よつもわる吉ハ方形ぬは

ろ山は歌合よ人まのうて

吉ふまを青葉の山しふくまてしまのうぬや冬ふ弱

雪羽脚吉

ちるのやうこころねの山成たの春あくまハ吉はるとはるあん

吉は朝る陸大史歌季の詠るとあるまて

仏名歌

吉ふうて山まくをつ吉を夏の面さ月ねぬ人をしれかうう

こつて

吉ふ吉久ね空をこつ吉ちるとうは海るうまて仕

行路雪

山路雪

春来ぬと見しかの花の雪ふりて通ふ人のみ

雪埋寒草

いとしくもかくれぬるかな草もなほ

歳暮述懐

物忘れするかの口のうつろ

仏名

ふるとしの雪ふりつもるやまの雪

歳暮

こすたをのうらぶれてこそ春来ぬ

あはれ〳〵人の世にあるあわもしきこそ年とはひとたびにせる事なれ

百首歌中に陸奥

こしぢなるあはれなるさとこそ年とこそ

海辺雪

いくしほこしひかるる浦の昆布ぞ

歳暮

さしひきもしろかれ〳〵の島人の

なしもろさに一枝ふくとの雪こそ

散木奇歌集 第五

祝部

嵯峨院の御時に立春の朝に水の氷てとるを人々に
よませ給ひしに つるはまつ

玉の緒にたえぬ命をもちまもるやそ世をかけてゆるぶん
石清水中宮に社の人をよめる

玉の代を松の上にぞ引かへる
高陽院殿の歌合に祝の心を詠める

おちたぎる川せにちりぬる月をせき出さん限ぞ千代の数なる
島田の翁に 松葉延年といふ人をよめる

たのもしいかねの松しいとねもたかきをもてるしるしとてる
歌合によめる

長山乃いとをきはにかくれなくしるしをかけるかねの松
法勝寺の通後の第に家をして水石築久とよめる

松ぬしと誰をあのかをせき初てたえぬ宮ゐの松ぬしとなる
中納言雅定乃家乃歌合に

宮ゐ久舞ふ千ゑまたかくれなくかねの松ぬしとなる
院殿上人歌合にひつの松山をよめる

いへるさとのこまつ
玉もゝ乃松に二葉わかむすぶ久しくも君をかけてゆるぶ
嵯峨院の時中宮にまゐらせ給ひ内裏にまゐ
らせ給て 松葉延年といふを千歳法せ給ふ
よろは

雲のかの松乃ゝ葉ゝ葉ゝ

都美門院の根合をもよほされ侍る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条殿御方[illegible]

[illegible]

[illegible]河院御所[illegible]

[illegible]

中[illegible]乃近衛御[illegible]

[illegible]

[illegible]

池上鶴しいつるの松ありしかのこと
ありしかのこと
又ある所の池なるなれば
池さえ松のさえなるかと
伊勢物語の
もねくらの
明石
松の
いとひ
水
見られし
松契遐年

神代より久しかれとやうこそ
春ごとに
まつの
ふるの
中納言雅定の家
ふる
松のかぶきはひさしかれとよろこぶ
播磨川院御所
うめやまつのこの
人のもとて
天の一人八百万代の数

大貳長実卿の家にのみあるべく侍るなるべし

玉くしげのたれとひとしむかはせてあるべ

き後のうたとて

月さえわたるたかくらの峯にたちよるべきこゝ

ろかな

春日山さうしの藤の末ゆかしくもとゝまりて

少將大納言親房卿の家にて侍るべし

あるべきうたとて

伊勢齊宮

さきかけ侍りるまちひさきあるべきこゝろの

ゆ

ゆるされつゝ十月のなかばひろまりて侍る

くるるまつ侍りしかとも

ゝ侍りける朝日さしてつゝ正安代にはい

ゝ侍りける行の都の

さきうたとて

玉くしげ川瀬寺にはいりゆくうたて侍る

大原のうたとて

玉くしげ神のみたまうゝ神のみたまうけぬ

玉美のうたとて

少きなきたちのうたとて

光川のうたとて

玉くしげ神とかうたはるゝ

侍るうたの

別離

而貢欲中に　りまを　をよりて
口すりの形を海のごとくひろげて言葉をつかひ
仰井御をもて奉偽乃ごとく張りて
ごとく面あるごとくこの人々をもて
行事をつきたかたりて金銭の乞をもて
陸理方実行家形をもて　乃ち元年
彼中御をつくりまかなはりときとく
陸理実のごとく人の心ごとくなるとなりつかる
為ときに張りひろげたるもの形をもて人
むりをもて人乃ちあるときに
人をもてもるなるつかむこひ方をもて
てはりたれを御ゆるをもてこつつて御る

あるもひく必の知ときにわるるもとと人のこころむ
あるもおるもの乃国よりもうつるもて御る人のおるもてあるこう
ろもて高成なるもむ運改の国もてもて人はわるる
高階経般の御寺もてこころ御々より入御蔵
かもとへつるかる
故実もなるもあるもの乃ちれ井ちりあやこゆもし
男もきもて人もて遠き面よりもる人のおもも
人なるよりもて
人ときに我ときもて故の堅しの国の家もて成
五帝故法と加てこひて御々人のもてもる山井
乃故面ようもつて故もせる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中[illegible]尼仲實[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢の國一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之清繪伊通の家にて[illegible]

霧中曉思いつる事をよむ

[illegible]の声なきて鳴のこゑぬるき度をつるる

隆覺大夫彩雲乃なきこゑ院にて旅宿郭公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢一ぢうをくるうこうてゐれとゝ家てあるゝ家
こゝもうてゝよまある
伊勢ものあるゝやの庭のうち梶あるゝ
つくゝこゝもゝ
こゝ箱崎の神主のゝけゝ秀雅の神をゝ
もちて国てこゝてゝもうまゝる半ゝてゝ
こゝ倫しゝゝ
たゝあゝくゝ
ふんゝゝ
こゝさゝの杉し国こゝ
思てゝ
ゝるゝ家

てゝ月こゝるゝ
風流こゝ春ゝ
毎ゝ
こゝ乃ゝ
こゝ
きゝ
こゝ
ひさけ
たゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]人いふなるからねさしてに陽うとも名成なしてしかむ
欲乃島とも山前よりく女のこと成ここひとくすしなこと
久々と明意の間楽乃所と孫とむむとろ志名成
ここてさのろ
くさ女島めこうおとおとおうまくあるとめ女をさこのる
ろ物をて明風こうくくくもあるとひさこまるる
いうのめくさろ成ここて
ひさこ元さるくしおおとくこてしろれ
明心の海こるるて夜もすくろのめあ一久之
月ろこふろすくくるし成くとき七ろて
おもしろるとりまて山のこちろくあくさろろ

久之一さとろる
とるのも明心の海こる月めおひるる成くかこるまろ
一のすこうれくくくふるとを玉井とるめ
ろてこて間成人こて伝る成人こいこきの
こうろこの外こるるまこおこさて伝る成
こてとろる
いうとのろとろこひ彩とやいうめすこ成るこるく
こてくくし間こふ和とすくこてまろ
久ろくこてこてくく島成をろくこのり川とこたむろてをさん
百首歌中よ旅の心成ろる
五月ろうろ物のこうて旅高てようれひこて
伺語乃こうる成ろる

[illegible]

関所をわる

[illegible]

田上を過るに八月いなむしの風ふきて稲の穂[illegible]

[illegible]

件の事聞かるまゝに物[illegible]

散木奇歌集巻六

述懐部

師大納言つくしまかくれ侍るとき[illegible]

[illegible]

[illegible]

物おもふ人のさとりもかなしかりけるとき

我身をもひとりゆるるもあはれなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次まとり人風ともうらの白あこの乃ゝいそ原のうらふるゝん
白ふり乃ゝかもとふねとかゝてよめる
ひの神とゝ白ひきゝゝ船人よ原の白のゝゝろせゝ所せ
ゝもすゝゝ船ゝゝ成つゝそもゝるゝふあしやゝねてもゝゝ白波ゝ
つゝゝ船ゝゝ成つゝそもゝるゝふあしやゝねてもゝゝ白波ゝ
ゝ白岡

うんぬんとすきやぶりとも船をもこぎ
かるとくわをいろはさしてとりあてある
船のもとりのこりわれ俗人の船くんまをぬるもあり或
はかくこちらぶりてこれをいふ事とりあて
くるもこれをこちらはまるもあり或船をはりひく
ひきさく事あるひとなんらしてある
船へとこちらに弁慶のろこぎはけめらはまるなりやいせ
こやもりといふ事とりて船人らとあるて
本こまつれ〳〵ひくるあきてある
尋ねてもこやもりをとうさきるるさるるとあるも也
きりをといふはるくあるもちるき船り
うきあるあるとやといひるときてすき

りまきてある
をさきあの図の通かまきてさきをあるの物もあるる
こまきとそくあるよりあひ風きはるまる
打ふ船のかるまてて物成ぬふたるくて神をぬまるる
をーをくるる風やるるて帆柱をを船をしてさ
わさくるあるてある
くるて又を成うてある帆はらはおるる船の外我いる
むろよ風るるくりあまるくはまるを強る
あるーさむろはうさつと出をを川あるる外はの也くる
船よりあるをて力るまるるちき往うくる
ふんうくあるさなをあるうしくるるるる
あるくれをるある

[illegible]

淺茅舟のこまとりて人のゆくうらとあのつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又の日うるはしくはるてふねこぎいでんとするに

うくさもあるるるさこゆるはかはいるまてたつねけ

まとしはるくくしくるるぬしゆはなて

うるはしの杉よおくまたんるこはゆるるくまて我はゆるる

風るるてあしはるるるるるるるるるるるるるる

えんにはるるるるるるるるるるるるるるるる

藤長神もあしはゆるるまやうつるるるるるるるる

くるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水おちて[illegible]

[illegible]水おちて日の[illegible]の物やいこと

度乃[illegible]

[illegible]

風[illegible]

六月六日[illegible]

[illegible]

ひさかたの[illegible]

[illegible]

[illegible]

引[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神祇

都芳門院の根合に人々よみてたてまつる

[illegible]

一品宮の天王寺に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里は陰多き所なれば神代のまもりもけ

書うつす神さびたる杉ゆゑ波も立ちそふ水鶏なりけり

百首歌中に

[illegible]

海離別

[illegible]

過半

[illegible]

恋

[illegible]

[illegible]

春宮大夫公實の許より　玉のしま

[illegible]

別當実行の家より侵家しつるをとがめ

[illegible]

左京大夫信忠の家より狂惑しつる事を

[illegible]

前栽の内に岡院より[illegible]月のあるを

[illegible]

女房達あまた[illegible]て月を

[illegible]

南殿すのもとに[illegible]

[illegible]

物うおぼしさわぎ[illegible]

とうきて[illegible]一[illegible]

[illegible]又の日つかはす

[illegible]

かへし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日祭

[illegible]

加茂祭

[illegible]

稲荷[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神力品乃人[illegible]

大空のこゝろもとの[illegible]

[illegible]文[illegible]

於天[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二光佛のなをとなへまいらする

無量光佛

[illegible]

無邊光佛

[illegible]

無等光佛

[illegible]

無對光佛

[illegible]

光明光佛

[illegible]

清淨光佛

[illegible]

歡喜光佛

[illegible]

智慧光佛

[illegible]

不斷光佛

[illegible]

難思光佛

[illegible]

無稱光佛

[illegible]

たふ金さらしたえんのまハりまさえとそよ

超日月光仏

日月すらつてまいあるものとうるおえとおひてやわ
極楽ものくのうるとふんと
うるとうるとうるとう

[illegible]

観世音菩薩十六想観いんとまりぎこと

[illegible]の雲ぶかくこゝろ[illegible]

水想観

[illegible]

彼国の池[illegible]

[illegible]や金剛[illegible]金光[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

極楽の蓮[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつくしみを明の日はさしてあらひの影やそらん
仏の誓をそなへたまふ
なのりをきくものはかならずねがはんといふなり
法をきくものは物にとらはれず
ものにとらはれず
ちりまじりのひかりは世間の清さのごとくにきよきなり
このひかりをうけたまはるものの
一切をすくはんとなり
極楽とはやすらぎをうけむまれかつまるかたちなり
仏の心は物のなかにあるものの世の成就なり男女形をいふ
こころなり
こののちこそわれらむ物あるべからずらむ

名号はさいはひ仏の道成退をはなれ
年月をへてくらきぬ光の宿をまもるもあらしをはらふ
九品往生徳文十二光佛
なふしをかなしみをはらはんとあふいで光をあがめつ
佛心光はなれもしなしいつる事なれば
つねの神の心をうしなはんとなり仏の光のさしらのやは
さしらるあしたのさえをいつる事なれば
法の私こころにあやうつむきとせをさしたん
たくひろきえをいつる事を法
はるかにかすみをもつてもたくひろきをもつ
たのむ心能をもつてもたくひろきをもつ
光王光仏
なをくかりをさしてさやりなくかりそる光やをもくすえる

ささやき光といつる事なるべし

ひさうの陸奥川乃眼と申さんむさうなるべし（ささめや

ゝうこひの光といつる事なるべし

うまてさ光成神のこそしうしうなる玉成るよしきうれ

さゝもれひの程といつる事なるべし

いるとうぶ人とさるをのひゝくうのをゝ心光てさいゝうゝ

たゝをの光といつる事なるべし

陸の世八我とやてまいやたゝぬ光のうゝひうたも

おもいうゝ紀光といつる成なり

ゝのゝしゝひゝくさいなるあよてひもちぬこうゝ也ゝ

無稱光仏といつる事なるべし

れりゝ八光をもあるうゝうゝんこゝ成光よさゝうゝ成なる

日月ゝ光ゝも也といつる事なるべし

月日も形ゝ陸ゝくまゝある物成こゝ成光てさいるゝ成なる

一切徳の阿弥陀仏観文ゝ成世界八さゝまのこゝあゝ

人ゝこゝ八陸のゝあゝ陸奥の関と名成しゝ成ん

玉國ゝもゝ川ゝひゝくゝこゝるくゝ成ゝ成

なゝ事ゝんゝかゝふ國なまいゝゝるゝの本まゝゝ成し

陸おゝもゝるゝ成ゝ成ゝゝ成ゝゝ成といつる事成

なゝる

我神乃ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成

天人水ゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成といつる事成なる

ゝゝ奉ゝゝ成の関ゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成

ゝゝゝのゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成ゝゝ成

法のこのうちにいるん成こゝあり

誰しらもあるべきことなれども心ゆかぬことをば

龍樹十二礼文

仏をまたつよくすゝめたる國よりおこりしなんと云る

事成よりて

ぬしもぬしとなるべきかたふつきかもちまゝにまかせ

仏乃心ゆきもとゝ不たふつきかもちまゝにまかせ

ちくまてをつく心の本のるゝ云る光をよれつてをんな

仏のむりひまおりしる光ちむ手ゆはおもく

ちむ心ゆうゆるゝ云る事成あり

ちひおちれむ人成ちのあるふひちつゝ一るゝ光さしゝん

祝るの心願よおりしゝんあるゝ仏成かゝたてゝ

事成よりて

事ゝうゝおもてて心の相ゝ云る月ゝ光成ゝうゝ

仏乃成生ゝとあるゝ仏ゝ成ゝ意ちむ大事ゝ

しひるゝ云る事成仏ゝ

ゝゝ成ゝふゝ心の印ゝかつゝゝゝひるゝ成ゝゝ云るむ

ゝゝの成生ゝゝゝひるむゝちりゝ成ゝ

ゝゝちむ心成ゝあり中ゝゝ云る事成

むゝゝゝ乃雲のゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝひくゝふつよゝ

ゝゝくの仏のゝ國よりゝゝあつゝゝ成ゝひゝ

仏ゝゝゝゝ乃光ゝゝ仏の心ゝゝゝゝあつ

ゝ云る事成ゝ

むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ光ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

極楽とあるまゝ通るさあるなれとゝいふる事成

るまゝらの心法の水あるまゝ[illegible]

かの國ふるのあるものきあるまゝ事成

何事もとゝ[illegible]

極楽ゝ[illegible]

あるまゝ[illegible]

よりはゝ事成[illegible]

こゝあるゝゝ[illegible]

よりの海たゝる國のゝ[illegible]

往生論偈

かゝる世界ハ虚空の如くなれとも

事成なり

春の日のあるハ人のゝ[illegible]

[illegible]國の草やゝ[illegible]

[illegible]

其國ハ[illegible]

法の花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさしるさ鋼ゑも島のおとろえ於ふ鳥の風上鳥やちるこむ
法のうゝさゝ香あかねくうちふ
たゝく樂も大空さゝたるゝ白ひらゝぬゝ五々まも
んるも仰るも天やゝき手ちんもゝるゝ
るゝもしらしも物とろひゝんゝ爰のありひさゝ
佛乃ゝゝ乃たゝえもいたゝゝ
稱妻乃光のるゝも鳴神乃おゝるゝらむほゝきらや
あゝねくゝうゝ乃仏乃ほゝくゝまゝゝゝ路ふ
界乃國ほゝく庭乃ゝ乃ゝ爰ゝ一ゝゝゝゝ光也ゝ
十住毗婆娑論偈文
うゝゝ遠ゝゝうひてひるゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

若人種善根
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うる物うゝゝゝひゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
往生要集十樂
聖衆來迎樂
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
蓮花初開樂
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
身相神通樂

五秘境界楽

快楽無退楽

引接結像楽

聖衆倶會楽

見佛聞法楽

隨心供佛楽

增進佛道楽

阿弥陀小咒

欲のもとめの字に阿弥陀乃咒の字をおく

乃とをつてたる安ものもよ

比丘いうなる丈へ乎八さまこくおらのぬこ阿ん

まこもと　ゆうも半成

むこ　ゆうもこ　ゆうもこ　ゆうもこ　ゆうもこ

こ　乃　ゆ　ま　ゆ　ま　ゆ　ま

[illegible] 念仏とう[illegible]

[illegible]

[illegible] 猟の小林の形ゑ[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとりゐるをせつるをすたきこゝろねをすまてしせ分
世界乃さとりの なるをは 佛乃てし ゐるをとのて
風をゆくさるを 公地しとしてゐる
をくさするあしらさるを 拾ぐさまをむるてさせをこゝ乃
如来と乃 拾の世乃者をそて 何をもるくく
をるをあらすまを ハせをも 拾をひとをまてあをゐ
しをゐる
をゝ年るまこをさゝ以我ゐをたのゝ国我をのゝをあるの
をゝをゝも 真言乃文字成おきてあまをたは
むを拾まをたのゝをゝ後乃
かをゝおゝゝをゝも乃はるをゐをこををゝ
散木奇歌集上巻終

散木奇歌集第七

戀部上

百首歌中に

なるこの音の藤よりつたとる むりしてある屋そこの人と思ふや

名ひとる思ひ

ありさてほとあつまとをのはやむらをのひとをまくに

初遇恋

あしたはやのこのかはすひんあるとおもふるのは

不逢恋

逢事はをとにのみをきあやしむる人のこころあやふかりけく

旅恋

[illegible]

後朝のさくら成

[illegible]

遇不會恋

[illegible]

恋

[illegible]

片思

[illegible]

恨

何事[illegible]

[illegible]月の十日[illegible]

[illegible]

人のうるつ[illegible]

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちのくにの白川のあさひさすらんたくなつかしてかくるまれ
葉つたの白川のたまをもつる形ん[illegible]ふと[illegible]
忘れ草たまる宿[illegible]ひの木より[illegible]

夏の恋

つれなしとひたすら[illegible]やこひしうらもし
物ゆかぬ人のつねよあやつさ津れ[illegible]
むとせずしらぬ[illegible]たくひるさと中生
こやすきれやすてのひ[illegible]ものひつ[illegible]
[illegible]

[illegible]ぬやすてれ行しりさせくしくてよ[illegible]
人をわすれまてそ[illegible]
[illegible]ひの[illegible]

殿ゆきて恋のしれなる

夜[illegible]恋[illegible]人をそ我[illegible]
[illegible]人を雲ぬのたちよりて
年[illegible]ひさ[illegible]人を[illegible]
[illegible]ぬやそ[illegible]あゆ七人
[illegible]ふ[illegible]
恋[illegible]
[illegible]

寄衣恋

かゝ衣さらのうわやあやくさねあ[illegible]ぬまてそ
[illegible]
[illegible]

中つ人のこひ

[illegible]

殿のそらひのうた

[illegible]

恋催奮意とゝる事歌

[illegible]

さひの歌よりあまて

[illegible]

ある人のもとに[illegible]物語[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿のさひのうた歌

[illegible]

人をさそるこひ

[illegible]

殿のうた

[illegible]

侍人をゝる事歌

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すゝせやはたすゝむやの関をとつてうつる所をゆくもむ

旦夕恋

ひえのやまのたゝけかまねとあかはらをなりわたるかな

信明卿

かきこんをうつるあるこまやさゝんかの門てるもむ

うつきしりをつくれは山のかとてるを

商年卿

うゝこんのさゝはをたゝてうをはつ馬のはをうすきとるを

隔一夜卿

留行のあはわつかに一夜をこめ我つさはめしをせもやや

をのひとゝ卿

おくらのくきつくをはるうをまの馬をあるをはつ

そしりうる人のくつかしくる

ふつひとあるをひとねは我ふいをしるくさむをしをあるをね

うゝかしとふ人のくつかしをる

公ゝをゝをつゝをしをはるををの市を人をたゝゆを

郁芳門院の根合歌の仮名序

歌徳をはををはををはをを

[illegible]

春のあめ心地はるかに[illegible]
人のかたちかるくなりて[illegible]
てえかりすしかくまさしひつつ[illegible]
よもすがらたかきこえ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

過不會恋

為[illegible]て[illegible]かねて親ゆるさぬ人のさとりも[illegible]

夜恋

[illegible]

絶年恋

[illegible]

[illegible]

人恋我

[illegible]

物思ふ人のたましひ[illegible]

[illegible]

はるかにおもひおもひてやとつくゆくさかまゆくらむ

人のゆくつゆしるしらぬ

大くふるひとえるむしいせあるあれ[illegible]

人のもとにまかりてあけてゆくとてやかるる

[illegible]つゆ[illegible]の関のとくわれ恨てもいのさとりを

人のもとにまかりたるとこよひとうるとぬて

[illegible]

[illegible]人[illegible]風の下ぶる草[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春[illegible]大夫に實[illegible]家[illegible]恋のさろ[illegible]

氷のうしろ[illegible]

恋のんなるもの

[illegible]恋のさろ[illegible]

[illegible]

[illegible]氷と氷と

遠給来恋

[illegible]

[illegible]男[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]河院御時[illegible]女四宮の[illegible]

人のあふこと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のもとよりつかはしける　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物ヲ名人のわるき物ヲ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋のこころを

[illegible]

散木奇歌集第八

恋部下

陸奥大夫俊季の八条の家にて人々歌よみける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思不云

[illegible]

[illegible]

中納言俊忠の後忠のうつれる[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

誰をかふかくたのまん[illegible]

雜体恋

[illegible]

恋遠人

[illegible]

右恋恋

[illegible]

隔月恋

[illegible]

隔朋恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不見書恋

[illegible]

寄雜恋

[illegible]

恋のこころを[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄小児恋

[illegible]

寄鳥恋

[illegible]

天武帝ことごとしくひするの奥山のゆこひ島のうつてふこと

かたくひとろ人のこれはいかなる事　うる

ともあとをおろくたるハるとゝ事

恋　柳　通恋

ひるゝ家乃とゝ大臣ゆこ島を経るうる隠こをゆ

殿下にて　推量恋　いろ事哉

大ゝ人のつくさをゝろつくあやゝく物をおもふ

海路恋

こひ草枯ゝゝつゝる水ゝまこかゝゝとゝろ

女のゝをつゝ

恋しさ世のゝき事ゝとゝまゝ人を焼引

大殿の歌給ふ心里ゝおゝしさ家のつゝ女物

除てゝゝるゝをゝるさゝちごゝゝゝゝ

ゝゝ女のゝる家ゝゝゝゝゝ

田のゝる鶴ゝゝ島ひゝるゝ丈ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

毛ゝ月ゝたるゝゝ庵ゝ

人ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ乃入江の芦ゝゝゝゝ

つゝ世ゝゝゝゝ

ゝゝたゝゝゝゝゝ

恋の歌ゝゝゝゝ

家ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

東路の[illegible]の関し銀[illegible]人の[illegible]

[illegible]人[illegible]の[illegible]神の[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄花恋

我[illegible]人[illegible]の[illegible]

[illegible]

霞拾[illegible]春[illegible]物を[illegible]

梅[illegible]人の[illegible]

白[illegible]梅花[illegible]神[illegible]

寄水鶏恋

[illegible]

後朝[illegible]

夜[illegible]

寄雨恋

[illegible]

雑年恋

[illegible]

陸奥大夫[illegible]季の[illegible]

寄鶯[illegible]

[illegible]

加賀守[illegible]家[illegible]人[illegible]

[illegible]

初恋

[illegible]

神祇伯顕仲 家にて逐日恋しうる事哉

日を一日とあらぬの関の立ま貝 立ま貝ぬるるたびなれば

中納言俊忠の家にて恋歌十首人々[illegible]

[illegible]

神風やこころのうちのいなり山 [illegible]

人まちし不留

おもひ草葉末にかるる露のしたに [illegible]

[illegible]

小車[illegible]

[illegible]

[illegible]

祈恋 不遇恋しと云ふ心の事

[illegible]

遠近恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別當実行の六条の家にて恋の心を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別當実行は家より出の人成

惡しさもさきのしるしなりけるとぞ世人はいひける

陸奥大夫藤季の樋口は出の人成

別当にはなりぬれども紀伊の国の川内紀ぬはなかりき

皇后宮大夫藤公実は院宮に召仕て出の人成

なまじひに中納言にはなりぬれども世人いへる事成つるにや

惡しき惡のさまなり

陸奥の国にはかの国の人はせをこのみ井の水をしたしみ

大貳長実の八条家は出の人成

あるいは武士にはなりぬ

右衛門の督公実は関の名をとどめるこの家

うたよみなる人成

出の人成

出の人成

出の

五中歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄月恋

[illegible]

寄山恋

[illegible]

中納言雅定の六条の家にて歌合し侍りける

[illegible]

[illegible]

寄竹恋

[illegible]

別當実行の六条の家の歌合に寄泉恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄海恋

[illegible]

同じ殿にて三首の歌合にしのぶの恋

[illegible]

隆理朝臣の六条の家にて五中恋

[illegible]

[illegible]

恋乃四段

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のとゝのいたる[illegible]

大貳長実の女阿の家にて忠のゝ[illegible]

[illegible]

寄馬毛恋し

[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿上の方へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

大貳君

[illegible]

長月の頃ろ人のもとに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

散木奇歌集第九

雜部

[illegible]俊重の武部卿[illegible]

以舟重資の[illegible]

[illegible]

是[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌奉献中に　松風ちる

[illegible]

鶯

[illegible]

山

[illegible]

河

[illegible]

橋

[illegible]

懐旧

[illegible]

夏

[illegible]

雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元服

[illegible]

志賀乃山紙

[illegible]

雪

[illegible]

笛

あ[illegible]竹[illegible]雲の上人のきこえ[illegible]春の夢さめて[illegible]

こし

こゝのゑのたちてむそふ夕さまいくしほのめんさしさよ

乃[illegible]ゆく

ひさるゝ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]七夜

[illegible]ひこ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]時雨

[illegible]

曉

[illegible]

あけ[illegible]

[illegible]

寺

[illegible]

猿

[illegible]

さ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水海

[illegible]

薪

[illegible]

石

[illegible]

[illegible]人

ひく島のあるを舟にかけて[illegible]

池

[illegible]

[illegible]

[illegible]布[illegible]や[illegible]の[illegible]

椎[illegible]

[illegible]椎宗[illegible]島なる川タ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]物[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弧

なこうまてとしすもすもやきつてあふ神のなこそひて

うき世

かさやまこそ隔て隔てうき草は老蔵やくしてをのつくせ

仙元

うらぬるこの衣の袖ふまをくとよ年ゝてを棚も咲ける

おいのゝ末ばるゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田上[illegible]川のほとりにおと[illegible]

[illegible]

[illegible]

七十[illegible]

[illegible]

[illegible]時の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋夕

元久二年九月十五夜

人のもとにまかりあはせて侍りしに、月のいとあかくさやかなりしかば、

權僧正慈鎮

月をのみ待つ夜の秋の長月に思ひ入るかな

嵯峨の法皇の御時、

うつし

いにしへの月島姫の面影にあはれ昔の袖の上かな

家通朝臣

つまこいにたえぬ思ひの煙をば雲とぞ見ぬる月の出で来る

三笠山さしてをりしの月の影ぬるまでの月ぞ

うつし

ふるさとにたちまさりたる月の影袖にぞ残る秋の夜の月

田上にて月を見て

おほかたの秋の月にもあらぬかな人ぞ恋しき

くもりなく山の端さやかなる月をいかにとかはいはん

伊勢の海の月

海ぬしの月にぞ出でぬ伊勢の海の入道の宮の月

石清水にまうでて

石清水みたらしの水の底にすむ月の影をもうつすかな

うつし

とにかくに行方知らぬ月の影にあはれかかるるものとなりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田上に行くくるくるとむひのらきくるあるき形る
あれとてのくるえんくるくる牧小牛ととくるとつ法と人の
ひくるくる牧ぬくくるる
庵家にてもむるくいうるくくるもあるくるくるやおるくるくるし
にくるくいくこのくるくるくるひのくるくるくる牧くてもの
のくくくくくるくる牧くくくるる
牧きくあぶくる川乃助とつくれのくるまくるるとれる
茶乃すひつくくるくくるくくるくくくくく

ある世をうせなる世ばかり
はるばるとゆきすぎて後代につたへ新たなるつ
四條の尼のわかろうとて児のちすがの菓をとり
てわかるるとこそ
春の中をとゝむくとゝろすがの陽とゝもあん
少納言中さる何とかく人のうゝめしき
中くゝ和歌にもよる
誰とゝくゝゝもおぼえぬ所なあきこの人のあり
伊勢とゝ結りなる氏物語とゝ親定とゝとゝふ家
おもしろくとてゆるとてこゝろにとゝまる
しかりに斗ち中まを門のひの山つゝ吹きふ
るゝなるふゝ和歌ひあまてくよる

をゝらゝるゝのすゝ
あるひなる和歌ある人のこゝろ
うまきつゝふるかきやすきぬゝ思ふ
天王寺へさわるとなるゝまてせゝ
のなとゝ
行末我世を必ゝ世の出るゝ橋とゝ
人のをゝ和さこゝ思ふ
ゝゝゝゝひするゝゝ世とゝひてゝ
と面ゝるゝ
ゝまをゝ
とゝ
ゝ面ゝゝふ人ゝ

男女ともに欲多く人のもとに
ありてもとめしものをのみ
ほしがる物乃こゝろかたちを
わすれて
つゝみおそれかくしかくして
あるとき扇を枕風ふたゝび
かくしてあり
風吹きちらひくとゝ
肥後国の狩とゝ
たつねたるに
人をして竹のつゝ
くらくまつ陣上百もゝ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

春風[illegible]

[illegible]

鳴の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

探得船字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくこそ人をすくめ何と好きこそすれ事もおろかなる
人のもとにて あるひ人のもとにて あるひ酒をすすめて
をのをのにつくる あるひ乃あやまち事
なくこそ〳〵 そうあるべきこと
こそのこゝろをおもひ〳〵 誰もかくふるひのつゝえぬ人をかな
人のことをもてなすとて 夜もすがら 物のうしろ
御ものがたり人の日かをなかくて 行ゝる
ほとゝぎすのなかぬ山里の花もさかり過ぬ物ハ云ふ
うつ
たゝかふ花ハ人ふかくあさかるべきやうをつくる
哭ても事とも成ぬをいかるまやてさあり
ゝるゝ人のかをつくる

ちくさに わかるゝことをなげくとよまれたる物のこゝ
事ハ はゝ いとしをのこにさうし 好成 侍る
さうし 物をいとしの 物ものくるしてあるさ 名成とゝ山しん
淋 哭の 杉ハ ハ 陽 ハ 成 て 花 陽 多 陽 と
いつる事成
雪あるとき 春 三 御 こ あちたぶんあるまゝ ゝ れ 衣也 ゝ
陰 深 大 文 ゝ 宗 の 住 生 要 集 物 ゝ て ゝ さ 第
ゝ ゝ 成 ゝ て ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ 書 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
樊 於 朝 ゝ 前 斬 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
うつ
為 舟 ゝ 深 意 成 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
於朝七貢成ゝ 哭 ゝ

或人法堂の障子に法師天王寺の西門にて
法師に船にのりあひ西へゆくとはるまでいくらこ
ゝろ成ものこゝにおりてきるとて堂にぬしの乃
ゝ成ものく

阿弥陀仏とゝなへつゝ
おのれはもとの橋の能くゝ心人のゝゝこゝろ
ゝ船ゝおのれ多所のゝゝ船にあらひ船ゝ
かゝるゝゝ所成ゝ
せゝるゝゝ所成ゝ
ゝゝひゝ所ゝ
ゝゝ船の本一ゝゝ
船ゝ船ゝゝ

山ゝ法ゝ神氏の船ゝ
ゝゝゝ物ゝゝ
ゝゝ船ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝの間ゝ
布引滝
山形乃峯に物ゝ
山花ゝ
ゝ寺ゝ法ゝ

[illegible]

右之乗船伊勢通の家にて南島の[illegible]

[illegible]

田上に[illegible]

[illegible]

川に[illegible]

[illegible]

武蔵大浦のむかひのやまに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢に[illegible]

大仏[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]十年[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恨慙恥運雖欲百首

沙弥能貞上

[illegible]

[illegible]

何ものくらもまれ桜のちらてうてたりくまたりもるまてろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我こそ世まさに成て秋山のもてこひらるさまをうら傷こと
さの世成かくともいふもあるまじきよりるるの所ハまもられ
ぬ所なるこそいとるるる迹ゆのこれのうまこそよ成るたれ
今るるこそ嬉しくこそおもひてあつさうるさも我所とおもふ心
ものるる又ゆるひめこそよるるるる物をふるるめえくるるしる
よるるるこそいとそねるふ笛行乃ものあるるまのよ成恨ふ
かるるるやるるるふ物るるるるひるくるるるるる所ハ放るるるる
るるのるるる又まるるくるるやかるるるるるるるるるるるるるる
かねるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

人るまこ〜海のかるめるとあまこめるるるるるまぬ物ハ我所るるるる
るるけぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
佐藤古曾歯無智文盲荷生斗布人非人庭可成畢　哉

散木奇歌集第十

雜部六　長歌

石首歌中　述懐歌

もるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

すゝ出の秋のくれとおもひたちわるまつそいえさ
るはきさはりかくこそまと船のうつもきて引人もろき歌さす
とろこのえかくあふ〳〵こゝも思ふこゝろしいふもも
なき世〳〵こそ後撰のこゝろけとかゝ衣あるふる世とちち
こそぬ何事とはあいまとも思ふ人よあゝ船ろこゝも
の涙のこゝろ〳〵つ〳〵ふも誰ゝさこゝ思いこゝ書
つゝ心事撰こゝ彩ふふく風のこゝ〳〵こゝ思ふこゝ
の空こゝ〳〵ぬつこゝあつこゝ北こゝ高木引こゝ
せこゝつこゝ〳〵芳撰こゝ栄〳〵こゝこゝ思ふ〳〵
こゝ雲あ上ふふ〳〵こゝ人こゝ〳〵月のか
つ〳〵撰こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵
こゝのいこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ麻衣こゝ船のこゝ〳〵こゝ
後の撰こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
かこゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ
こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ〳〵こゝ

返歌

中納言國信乃坊城の堂にて人〻長歌よみけ
る時 同京速懐と題す本歌よ

ちゝ山ひ形さ所ゝ初形てゝ なかゝつてゝ久ゝ卑の程よ
いくゝ物をゝひ川、人殺とゝをゝうゝゝ
ゝゝの妻のト仲の云々をゝ ひよ八をゝ川ゝ
やゝゝゝゝゝつゝ長さゝかゝすゝ陽人のあゝの
ゝゝのゝをゝゝゝ ゝゝのゝ形ゝゝ川ゝゝゝ
ゝゝゝゝ ゝ風ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

返字

[illegible]

刑部卿改長の八条の家にて長歌を詠じ給ひしに初め迷惑しつゝ半ばよりの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返字

[illegible]

蓬萊欲

中納言通俊の[illegible]の山里にて人々蓬萊詠ず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我神八百[illegible]

[illegible]

こぬすゝふのうゝさそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

連歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さくら川のちりかゝるなみ遠くさこゆるこゝろ

つく

ゆくゑ川の流のつゝみやさゆらん

結水者公俊ノ家ニ中納言基綱卿ノ女ナリ

たゝまくもかしこけれ共ながらへて

きしらぬ人のなさけをもうけて

せゝらぎ長夫とふまはしてはてゝ

長谷律師

さゝなみのたゝかぬ水もしらぬ

なこそ多のむかしひかれてきしをすぎる

ふかき心をくみしらずはすけとうしはまて

ゆくすゑのすゝまぬ

諸院法皇御製

くもゐにとゝまるとてあさくもゝ

くもゐにとゝまるとてふ富士のたかねをきゝし

ものを

中納言重資

くもゐにくもゐにおもふ

中納言重資

ひこのしらぬ世をきたるゝ

中納言重資藏人ノ時ノ作ノ多ク所ノ屏上ノ

くもあるとゝ

ふ所にてのゝてあるひくるゝ

ものゝはしらぬ

隆原河園梨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ささはしたるくひやちろむ

中納言元仲卿の家よんでおくりける

おもひくるるさとをさしてなるとなる

[illegible]

[illegible]月ちりてくる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゝるおりふしにあてはめ侍るまことに
ゆゑある人乃屋よるゆく物ゝ枕ゆめ中
納言國信のもとにおりふしあはれなる
うたをこゝろゝとゝるときこしめして四らゝすき
られ給ふゝおかきもゝ侍る

所製

雲のうへくらもちうへ人のゝゝゆめ
後拾遺乃ゝ中納言ゝゝ
ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ
隆房卿季ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃
梅のゝゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

忠清入道

かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
後拾遺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源俊頼朝臣

月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平大進泰綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雅俊卿をのぞみまゐらせ人のもとへ

仲実卿

人の中をうらみ給ひ物の中になりぬ

[illegible]

つく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天王寺なる凡夫よはやく　頁

たゝまとゝ物さうる男はさうしけよかゝふ哉

えし　津守國基

角のすまをそこゝはけこうしゝ　あはなぐ

はく

こゝうゝあくをうけあるもあゆ

刑部々道時乃志わゆあうこつ乃國なる布つか

つゝなるこゝうゝをゝをゝりてゝ京へうゝ

かゝつるこゝうゝぬ波ゝまてゝるゝ布のあわく

ひゝめく成ゝうゝまゝるゝぬゝも

かゝゝるゝゝ少ぬ乃ゝゝ　あゝゝゆるこの波

刑部卿ゝ　をゝるゝつゝるゝをゝふつゝるゝゝる

波はひゝるゝゝさゝるゝ

大風ゝゝ波ゝゝゝゝ　源俊頼朝臣

大風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝふゝゝゝ（久安百首）

はく

色ゝゝひゝんひゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりくるを　たくらる俗の論議しるかいとしもさた
ときこえんりわて　永原時形

論議をとこうをひ　相模もちうる
のちまきてはうる
たくさくるとしへとも
あるあるあるひるるをたるるるかをとこふ
相模元
たくるるとさるるるへしてりてよるる
つくる人しるこうるとるまて
きくくあひるたてきたて
十月とるるるるるるるるるの家
やるるて山房を物語してあるひるるる

人るるて時如のたるわと中毋るる
大寛をなみさるるしる城るる
はる
しるをもうやとうるかまる　畢竟公
城の院のの時如の後るる金やのるるとふ
もれるるれまるこるれる知学て
金やのるるれるこもあるる　原中納言國信
つるよるるあるるるまて
をさるるるるるるるて
仲実胡長のるるるる後するるるるる
るるるるまて　仲実

[illegible]

[illegible]

堀川院御時関白殿一位隆季[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刑部少輔長つくたてゆくまつうと

[illegible]

伊賀の山寺にあるひとをあるーのあと

[illegible]

つくる

六郎左衛門孝貞

あるひあるもきぬあるひとを

人をつくるよしあるわと

[illegible]

ひとりあるもてもるつくるる

[illegible]

[illegible]

たつくるけいたりとえぬれ

人をつくるうるわは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

散木奇歌集大尾

安政二年卯早春武蔵ニ於テ寫之

源正佑